

福岡県米麦大豆生育情報

平成30年3月22日
福岡県農林業総合試験場

麦の生育概況と対策

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	2月28日～3月19日 (20日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	10.7	16.7	5.3	107	158
前年差(比)	+2.3	+2.7	+1.7	83%	3,160%
平年差(比)	+2.4	+3.7	+1.5	114%	199%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦の生育 [小麦:11月20日播種、大麦:11月24日播種]

2月28日～3月19日の平均気温は平年より2.4℃高く、日照時間は平年より14%多く、降水量は平年より99%多かった。

3月20日現在の生育は、草丈は平年並～16%短く、茎数は小麦で平年並～18%多く、大麦は農産部で31%多く、筑後分場で12%少ない。主稈葉数は、0.3～1.0葉少なく、生育は遅れている。今後の気温が平年並で経過した場合、出穂期は、平年に比べて小麦で3～4日程度、大麦で2日程度遅いと予想される。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

ほ場の湿潤状態が続いており、今後も排水対策が極めて重要である。排水溝の溝さらえ、排水口の整備を行い、地表水の排水を図る。

(2) 赤かび病防除

麦類の収量、品質に対する赤かび病の影響は大きく、防除は必須作業である。小麦と裸麦は開花期(出穂後7～10日)、二条大麦は葯殻が押し出されてくる穂揃期後10日頃(出穂後12～14日)に必ず防除を行う。赤かび病に弱い品種や、降雨や曇天が続き多発生が予想される場合には、7～10日後にもう一度防除を行う。

防除薬剤は普通作病害虫・雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(3) 穂揃期追肥

子実のタンパク質含有率を向上させるため、ラー麦(ちくしW2号)とミナミノカオリは、穂揃期追肥として10a当たり窒素量5kgを、穂揃期～穂揃期後7日に必ず施用する。尿素の葉面散布を行う場合には、窒素量2.5kgを開花期と開花期後7日頃に2回施用する。チクゴイズミ等の日本めん用品種についても、地力が低い地域や葉色低下が著しい場合には、穂揃期追肥を窒素量2kg程度施用する。

4. 農林業総合試験場における調査成績

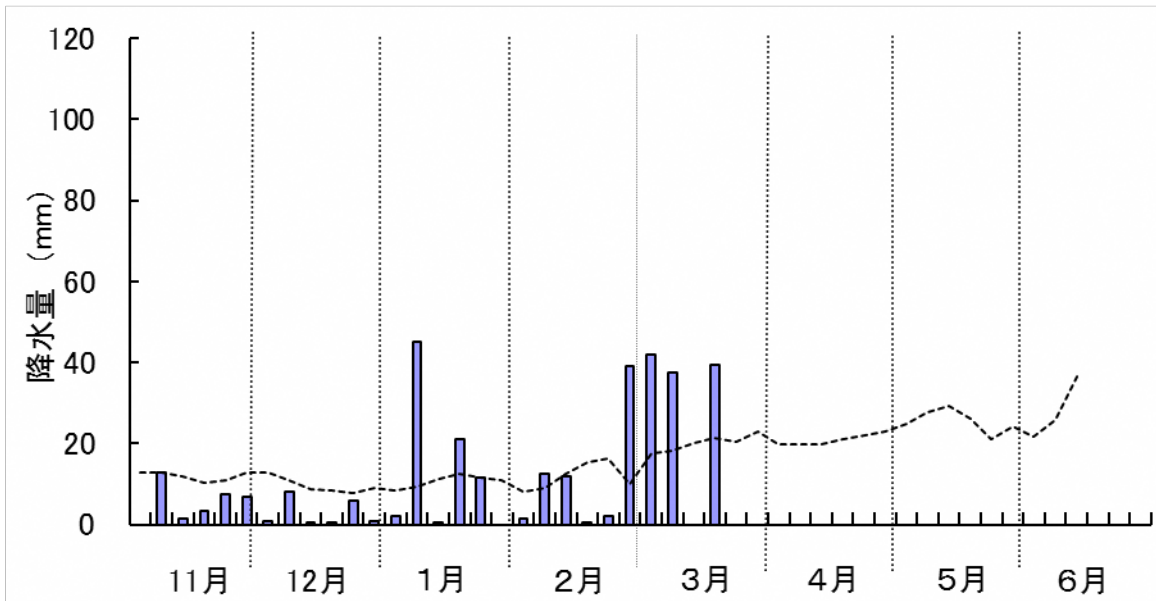
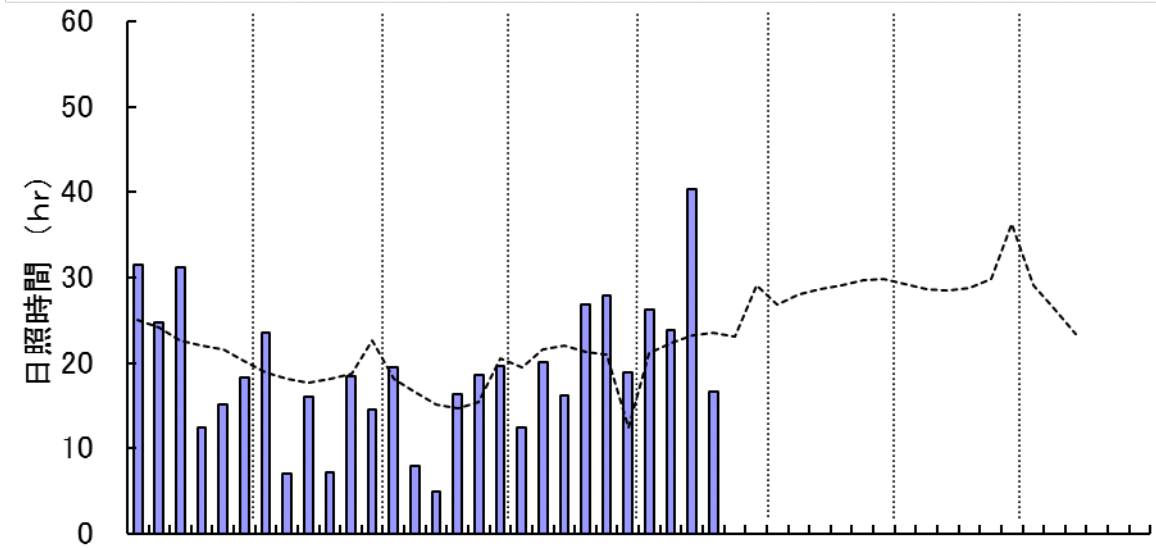
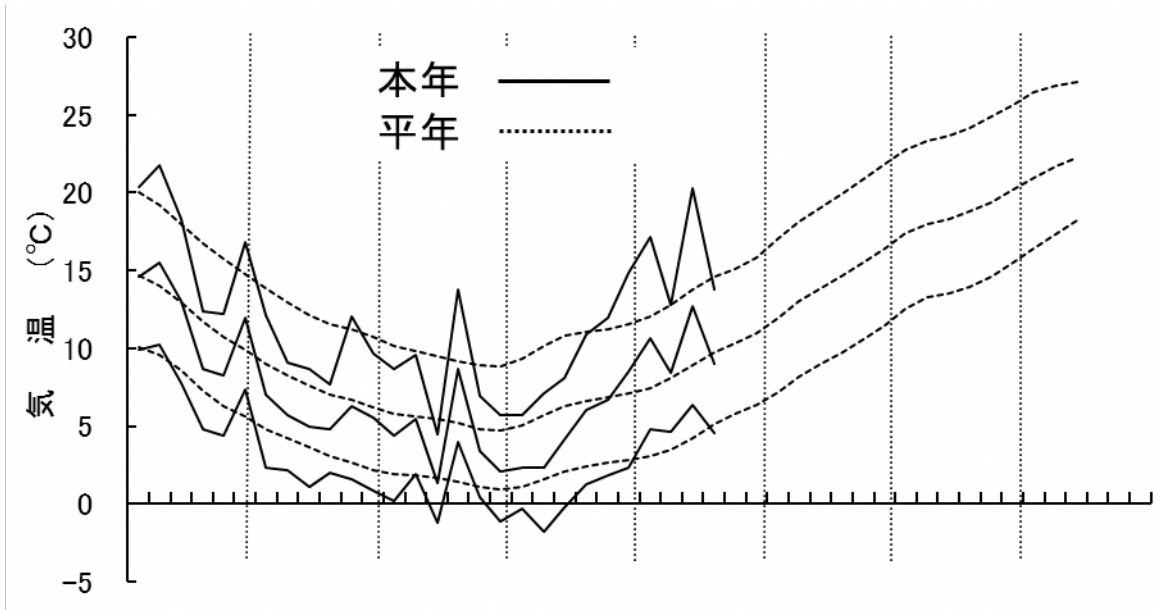
調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	2月28日			3月20日			茎立期 月.半旬	予想 出穂期 月/日
				草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数		
				cm	本/m ²	L	cm	本/m ²	L		
農産部	11.20	チコ ^o イ ^o ミ	本年	17.1	653	5.4	43.9	715	7.2	3.2	4/13
			前年比(差)	51	97	-1.9	78	122	-1.3	(2.4)	+7
			平年比(差)	70	88	-1.4	94	102	-1.0	—	+4
	11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	17.1	632	5.5	45.2	656	7.6	3.2	4/12
			前年比(差)	52	107	-1.8	82	124	-0.9	(2.4)	+7
			前8年比(差)	68	95	-1.2	94	105	-0.6	—	+4
	11.24	ほうしゅん	本年	12.8	1214	5.8	35.3	1362	8.2	3.3	4/11
			前年比(差)	62	128	-1.9	87	170	-1.7	(3.1)	+7
			平年比(差)	69	107	-1.1	99	131	-0.7	—	+2
筑後分場	11.20	シガ ^o ネムギ	本年	16.7	832	6.3	41.7	907	8.3	3.2	4/10
			前年比(差)	64	119	-1.1	91	128	-0.7	(3.1)	+3
			平年比(差)	61	101	-0.8	84	118	-0.3	—	+4
	11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	18.4	841	5.8	48.5	809	7.9	3.1	4/8
			前年比(差)	82	126	-1.6	103	126	-0.9	(2.6)	+3
			前9年比(差)	63	115	-1.2	94	117	-0.6	—	+3
	11.24	はるしずく	本年	16.8	827	6.3	37.8	991	8.6	3.1	4/5
			前年比(差)	96	94	-1.1	97	115	-1.4	(3.1)	+5
			平年比(差)	73	65	-0.8	87	88	-0.7	—	+2

注1) 平年値はH19~28年播の平均値。

2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

3) 前年比(差)、平年比(差)：草丈および茎数は前年比および平年比、出穂期および葉数は前年差および平年差を示す。

4) 予想出穂期は今後の気温が平年並で推移した場合の出穂期。過去の播種期および出芽期から出穂期までの積算温度とこれまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス: 平成29年11月～平成30年6月)